シックハウス対策としての特定の木質建材に関する化学物質の放散特性の解明

1　中核機関・研究総括者

独立行政法人森林総合研究所　鈴木憲太郎

2　研究期間

2002～2004 年度（3 年間）

3　研究目的

加工度の高い特定の木質建材を対象とし、厚生労働省指針値が策定された化学物質について一般化されている小型チャンバ法により放散・吸着特性を解明する。

4　研究内容及び実施体制

①木質建材の化学物質の放散・吸着メカニズムの解明（独立行政法人森林総合研究所、早稲田大学、静岡大学、鹿児島県工業技術センタ）

小型チャンバを用いて木質建材の化学物質の放散・吸着メカニズムの解明を行う。

② 建材からの厚生労働省指針化学物質の放散量の把握並びに生産・流通過程での放散量変化の解明（独立行政法人森林総合研究所、財団法人日本合板検査会、北海道立林産試験場）

小型チャンバを用いて、木質建材からの厚生労働省指針化学物質の放散量把握並びに生産・流通過程での放散量変化の解明を行う。

③ 保存処理木材の化学物質の吸着量と放散量との関係の解明（独立行政法人森林総合研究所、東京農業大学）

小型チャンバを用いて、保存処理木材の化学物質の吸着量と放散量との関係の解明を行う。

5　目標とする成果

特定の木質建材に関して、厚生労働省指針値が策定された化学物質について、小型チャンバ法による放散・吸着特性が解明される。これにより、木質建材の品質確保のための指針値の作成及び建築基準法におけるシックハウス関連の規制に対応した木質建材の JAS 規格整備のための基礎資料が得られ、木材需要の大宗を占める住宅建築分野における木材の使用が担保されることが期待される。